

令和 6 年 9 月 2 4 日
教育部 学校教育課
0438-23-5264

「木更津市合同生徒会」×「きさらづ地域循環共生圏」
～企業とコラボした衣類循環プロジェクト「Present for Future」～

木更津市合同生徒会は、市内の全市立中学校12校の生徒会会長が参加し、情報交換や協議等を行うなかで、中学生の自由な発想を引き出し、豊かな創造力を育てることを目的として、令和5年3月に発足しました。

第2期合同生徒会では、12人の生徒会会長が「木更津市のために役立つ活動をしたい」という、共通の思いを持つ中、「きさらづ地域循環共生圏の創造」の18の取組の一つである「衣類の新たな循環サイクルの促進」に着目し、12校で共通して「衣類回収」に取り組むことを決定しました。

- 1 ね ら い 中学生が衣類回収に取り組むことをとおして、資源循環の仕組みを知り、持続可能な社会づくりについての理解を深め、一人一人が自分にできることを考える機会とします。さらに、さまざまな社会の課題を中学生が自分ごととして捉え、これから生きていく社会を明るく豊かなものにするために、どう考え、どう行動するべきかという、SDGs達成に向けた一人一人の意識の向上と、行動の変容を図ります。
- 2 取組期間 9月下旬から10月の中で、各中学校で定めた日程により1～2週間程度
- 3 場 所 市内全中学校（12校）
- 4 内 容 本取組は、第2期木更津市同合同生徒会の取組として、第4回合同生徒会のダイジェスト動画や、合同生徒会長（富来田中学校3年 積田来飛）の市内全中学生3500名に向けたメッセージ動画により、各中学校生徒会会長が全校生徒へ向けて提案します。衣類の再資源化に先進的に取り組んでいる市内の企業等の協力のもと、各学校に衣類回収ボックスを設置し、家庭にある使わなくなった衣類等を回収します。取組の実施に際し、各中学校での、協力企業の出前授業や、講師を招聘した講演会（動画視聴を含む）の実施により、生徒一人一人がSDGsの達成や、きさらづ地域循環共生圏の創造が必要である社会的背景と、資源循環の仕組みを理解し、目的意識を持って、主体的に取り組めるようにします。
- 5 協力企業 三井不動産株式会社 KISARAZU CONCEPT STORE
一般社団法人 サーキュラーコットンファクトリー
株式会社 KURKKU FIELDS
株式会社 ECOMMIT

6 経 緯 第2期合同生徒会ではこれまで会議を重ねる中で、中学生として木更津市のために貢献できる12校共通の取組がしたいという思いを共有しました。8月7日に行った第4回合同生徒会でのSDGsの講演会では、Tシャツ一枚を製造するためには約2.4トンもの水が必要であることや、日本では1年間に約80万トンもの衣類が廃棄されているという話を聞き衝撃を受けたことから、衣類の再資源化に興味を持ちました。さらに「きさらづ地域循環共生圏」の18の取組のひとつである「衣類の新たな循環サイクルの促進」に着目し、12校共通して「衣類回収」に取り組むことを決定しました。

7 そ の 他 各学校における取組の様子等の取材については、学校教育課までご連絡ください。

8 （参考）きさらづ地域循環共生圏

(1) 地域循環共生圏とは

平成30年に国の「第5次環境基本計画」で提唱された、地域にある資源を最大限活用し、足りない部分は地域同士で支え合って、環境・経済・社会を良くしていく考え方です。

森里川海などの自然資源を含めた様々な資源を活用し、地元経済を活性化させながら、環境負荷の軽減も図ることで、地域を持続可能な姿に変えていく仕組みをつくります。

これは、SDGsを実践することでもあるので、「ローカル SDGs」とも呼ばれています。

(2) 本市の取り組み

地域循環共生圏の考え方のもと、本市では企業や団体の皆さまと意見交換を重ねて、地域の持続力を高める「里山の再生」、「資源循環の促進」、「食・有機農業」、「再生可能エネルギー」、「里海の活用」の5つのテーマごとに取り組みを整理しました。

これらの取り組みを市民の皆さまをはじめ、企業・団体の皆さまと協働・共創しながら進めていきます。

「きさらづ地域循環共生圏」の創造に向けた取組（体系図）	
里山の再生	1 ハンノキ湿原周辺地域の生態系の再生・活用
	2 森林整備の促進
資源循環の促進	3 下水汚泥の堆肥化
	4 衣類の新たな循環サイクルの促進
	5 焼却処理中の有機性廃棄物の資源化
	6 アルミ廃棄物の活用
	7 食害対策としてのクロダイの資源化
	8 循環経済への移行を推進する取組
食・有機農業	9 有機農業の推進
	10 「きさらづ学校給食米」®の活用
	11 有機農産物を活用した商品の開発
再生可能エネルギー	12 脱炭素地域づくりに向けた面的整備
	13 再生可能エネルギーの普及
	14 E Vの普及促進に向けた環境整備
里海の活用	15 盤洲干潟エリアの保全・活用
	16 漁場環境の改善
	17 オーガニックツーリズムの組成
	18 カーボン・クレジット